2022年12月18日（土）　未来に向けて　第1号

未来に向けて

帯広市立
帯広第四中学校
1年2組31番
山口華奈

SDGs

この新聞は、校外学習や、フィールドワークで学んだ今の世界の大変さを書いたものである。他にも、帯広のSDGsの取り組みなどを書いたものでもある。

6月28日の、校外学習で今の大変さを私は思い知らされた。今回は、世界の問題の中で、印象が強かった3つを紹介しようと思う。1つ目は、あまり経済が進んでいない国で起きている戦争や紛争の問題だ。この問題が起きることで、安全に生活ができない人が多くいる。2つは、国同士の文化の違いで起きているそうだ。2つ目に紹介しようと思うのは、1つ目とは違い、経済が進んだ国などで起きている大気汚染だ。この問題が起きることで、ぜんそくなどの病気にかかることもあるそうだ。最後は、日本でも深刻な食品ロス問題。日本では食べ物が毎日全員の人口がお茶わん一杯捨てていると言われているほど、日本でもひどい状況である。しかし、日本のような国がある中、世界では、人口の一人が、ご飯が食べれず、うえている国もあるそうだ。この世界にある多くの問題を、なくすために、自分がやったって何も変わらないと思わず、自分が行動することで世界が変わると思い、生活することが大切である。そのことで、多くの人がすくわれ、環境問題などの問題が解決することが出来るのである。

世界が、今現在抱えている問題たち。その多くの問題がSDGsとしてまとめられている。そんなSDGsは、2030年までに達成させる17の目標として、時間が決まっている。17個のうち、日本は5つの目標が達成できていない。しかし、達成できているものが3つしかない。つまり、日本は達成できていないものが、多いと言える。達成できていないものは、5番と13番、14番15番そして17番だ。日本だと、特に5番目のジェンダー問題の家事は女性のものなどの偏見を聞いたこともある人も多くいるだろう。日本でも達成できていない17番は、パートナーシップで目標を達成しようという、SDGsの中でも大切な目標だ。この目標を達成させるためには、国同士の対立をやめ協力し世界で抱えている問題に向き合うことが大切だ。

17 パートナーシップで目標を達成しよう

SDGs　17番

自然の歴史

私が住んでいる帯広には、はぐくーむという森がある。その森は、吉村博さんが作った。1896年頃は森林はあったが、1195年頃には森が伐採されることがあり、森林が減っていった。その時に、森林を増やそうとしたのが吉村博さんである。1975年から2004年頃まで、市民植樹祭を行っていた。市民植樹祭では、5000人が参加したことにより、55種類23万本の木を植えることが出来た。森は木が植えたら完成ではなく、森の手入れも必要だ。そのためには、市民育樹祭というものを行った。このお祭りは、1991年から2005年までやっていた。毎年約、1000人が参加してくれ、間伐や枝払いなど森を育てる活動をしている。そのことで、2009年頃には上から見ると、緑色になるほど木が増えた。そして、2010年には森に親しむ活動ができるはぐくーむが開館した。はぐくーむでは、今でも市民団体が、間伐など森づくりの活動を行っている。

フィールドワーク

私は7月14日にグリンパークから帯廣神社に行き、そのあとグリンパークへの帰り道に落ちているゴミを拾う、フィールドワークというものを行った。最初は、ゴミがあるとは思っていなかった。しかし、ガラスなど危険なゴミからマスクや缶などいろんなゴミが落ちていた。そんな、ゴミは人の手で処分しない限りずっと陸や海などにあると、無くならないそうだ。だから、とても環境に悪い。なので、ゴミを無くすためには私達はゴミ拾いなどのボランティアなどに参加することなどが、環境を悪くしない方法である。

帯広は

帯広には、多くのお店がある。その中で、SDGsの取り組みを行っているお店がある。その中にあるのが、波瀾万丈というお店だ。このお店では、バイオガスの余剰熱を使用したチョウザメの養殖を行ったりしている。他にも、傷ついた魚を捨てず、加工して売っていたりしている。波瀾万丈のようなお店が増えることで、食品ロスが減ったりしたりというういろんな問題が解決していくのかもしれない。

編集後記

この世界には、大変な問題があることがわかった。そんな中、帯広でもSDGsの取り組みをしているお店もあった。そのようにみんなで協力していくことで、いつか世界の問題がなくなっていくと私は思う。

十勝毎日新聞